



全国通信三田会報

第104号 2017年(平成29年)2月10日 発行

発行 全国通信三田会 会報は正会員の情報紙です。
 発行人 山岡 恒夫 * 年会費 2千円
 TEL 029-875-0533 * 郵便振替番号
 00120-2-18806
 事務所 〒300-1282 茨城県牛久市 井ノ岡町 2117 山岡恒夫 複数年度お支払いの意向をお持ちの方も会計処理できるようにしました。
 編集人 幸治 典子 * 会への連絡は12面の連絡先へ

第一〇四号 特集号

通信課程卒業生1万5千人達成記念式典

10月15日・三田キャンパスに215名が集い祝賀会が華やかに開催された



慶應義塾大学通信教育課程卒業生15,000人達成記念式典

2016年10月15日 於:三田北館大ホール

ご出席の方々(前列左から) 坂上弘 慶應出版会顧問, 池田幸弘 通信教育部長, 渡部直紀 常任理事, 長谷山彰 常任理事, 加納時男 全国通信三田会名誉会長, 比企能樹 連合三田会会長, 清家篤 塾長, 松浦良充 文学部長, 中村慎助 経済学部長, 岩谷十郎 法学部長, 榊原研互 商学部長, 富山優一 塾監局長

15000人: 事務局運営初体験の記

企画部長 出口 常雄

2015年7月、全国通信三田会報(第101号)で「15000人達成記念祝賀会」準備委員募集! について、会員にお知らせしました。

9月25日(金)第1回準備委員会を開催し、次の通り概要を確認しました。

- ① 準備委員の選出(応募者は、全国で8名、参与は12000人祝賀会経験者より)
- ② 開催日時 2016年10月15日(土) 秋期幹事会開催後
- ③ 内容 記念講演会、記念式典、記念祝賀会の開催
- ④ 場所 記念講演会・記念式典: 北館ホール
記念祝賀会: 南校舎4階「ザ・カフェテリア」
- ⑤ 記念講演会講師(候補)
作家・慶應義塾大学出版会顧問 坂上弘 様

10月24日(土) 全国通信三田会秋期幹事会において、上記実施内容が承認され、2016年5月28日(土)の全国春期幹事会(於:水戸市)で、「全国通信三田会・通信教育課程卒業生1万5千人達成記念講演会・記念式典」並びに「記念祝賀会」の開催内容が承認され、会報103号(7月10日発行)において会員にお知らせしました。

第1回準備委員会の開催から祝賀会前日まで、延べ14回にわたる会議を重ね15000人達成記念講演会・式典・祝賀会を開催することができました。各地域通信三田会会長さまには、会員(普通会員を含め)へのご周知と、きめ細かなフォローにより、全国から多くの皆さまにご出席いただくことができました。

特に、塾員センターの堀崎元章部長様、北村和夫課長様には物心両面にわたるご協力ご支援を賜わり盛会裏に開催することができましたこと、衷心より厚く御礼を申し上げます。

卒業生の率先参加と塾員センターの側面支援が結実

— 卒業生15000人達成祝賀会を無事終えて —

事務局長 吉浜 健二

先ず、全ての皆さまへのお礼のご挨拶です! ありがとうございます!
 卒業生15000名の1% = 約150名参加を当初想定して、全国各地域通信三田会を挙げて、一年半も前から、可能な限り参加を募りました。なかなか盛り上がりませんでした。実際に開催の1か月ほど前から「参加」の連絡が事務局に飛び込み始めて、2週間前の10月に入り機運が急激な盛り上がりを見せました。

前日の14日(金)から、事務局はスタンバイ。塾員センターのご支援のもと会場設営や、当日の受付～記念講演会～式典～祝賀会の会場移動を含めてリハーサルをしました。

明けて当日の10月15日(土)は、当初想定を4割以上をも上回る実に215名の卒業生たちが祝賀会会場に足を運んでくださいました。迎える事務局はうれしい悲鳴の連続でした。特に、祝賀会会場の受付は、大多数が当日の突然のお願いにもかかわらず、みな膨大な名札とリボン、コサージュの来場者ごとの分別。帰りの記念品と名札の正確な受け渡しなど、全体としてスムーズに行われました。種々反省点はありましたが、どうか開催時刻を迎えることが出来ました。

15時から「記念講演会」。坂上弘講師(小説家・慶應義塾大学出版会顧問)は、通信教育発足の新聞のコピーを参考に、多くの感動を北館1階ホール会場の参加者一人一人に与えた記憶に残るご講演でした。引き続き、同ホールにおいて、16時半から「記念式典」。塾からは清家篤塾長、長谷山彰常任理事、渡部直樹常任理事、池田幸弘通信教育部長はじめ各学部長。慶應連合三田会からは比企能樹会長、そして全国通信三田会の加納時男名誉会長、山岡恒夫会長など、ひとつの三田会の行事としてはこれ以上は考えられない方々がご来臨として登壇・お祝辞をいただくことができました。

17時半からの祝賀会は、会場を南校舎4階の「ザ・カフェテリア」に移動して開催。全国通信三田会加納時男名誉会長の乾杯。長谷山彰常任理事のお祝辞に続き、約80名の全国各地域通信三田会の功労者ひとりひとりに、山岡恒夫会長から、謝意と感謝状が贈呈された。会場は参加者の熱気に加え、応援指導部が巧みな話術と迫力の一層の盛り上がりを見せ、参加者一人一人は思い思いの感慨を胸に、肩を組んで「若き血」を斉唱し、19時半予定通りの時刻にお開きとなりました。

編集後記

「慶應義塾通信教育の歴史」を担当させていただき黎明期から現在までの歴史に触れる機会を得ました。黎明期の補助教材「慶應通信」に「大学通信講座開設の意義」が掲載されており、その小見出しは社会教育の急務・本塾と社会教育・通信教育の特色・本大学講座の使命でした。第二次世界大戦で学問を捨てざるをえなかった多くの人が学問への熱い思いを胸に、入学された姿に接して深く感動しました。(伏屋重晴)

訃報

昨年一月二七日に大阪・慶友三田会顧問の西垣金弥さんが九三歳でお亡くなりになりました。今年一月一七日に全国通信三田会名誉会長の加納時男さんが八二歳でお亡くなりになりました。慎んでご冥福をお祈りいたします。

「一〇年前に「二万二千人突破記念祝賀会」を開催。昨年は「一万五千人達成記念祝賀会」が開催され、その時々、会報編集に携わりました。大会の開催は、役員の方にとってその準備など苦勞が多かったことと存じますが、会報担当としては大会後が本番で、特に今号は特集号ということで、多くの時間を費やしどうか発刊できました。皆様に御礼申し上げます。(幸治典子)

「お陰様で、「記念特集号」を発行でき感謝です。計画では、「山岡会長と池田通信教育部長の対談」も担当しておりましたが、ご多用中のお二人に相談していただくには、スケジュール設定が叶わず、申し訳ございませんでした。今後は早めにきめ細やかな準備の必要性を痛感いたしております。皆さんのご尽力で特集号にふさわしい会報です。(星野寿美)

会への連絡は下記へ

下記のようにご連絡くださるようお願いいたします。

- ◎会へのご意見など
事務所へは郵送のみでお願いします。緊急の用件の場合
会長へ Tel 029-875-0533
山岡方 (夜間7時～11時まで)
- ◎住所・姓名変更 退会 逝去者など
田沼方 Fax 03-5942-8678
(住所変更は下記塾員センターへご一報!)
<https://www.d01.adst.keio.ac.jp/kj/jukuin/mailform.html>
- ◎新入会申し込み、会計関係(文書で)
〒340-0003 埼玉県草加市福荷 2-5-2 大川成一方
- ◎「全国通信三田会報」原稿送り先
〒178-0061 練馬区大泉学園町 1-11-24 幸治典子方
Tel & Fax 03-3924-1626
Eメール kouchan@finesis.net
次号原稿締め切り 平成29年5月末日 原稿字数 8000字位

十月十五日(土曜日)、慶應義塾三田キャンパス北館一階ホールと南校舎四階ザ・カフェテリアにて、十五時より、二〇一六年全国通信三田会秋期幹事会の後、慶應義塾三田会通信教育課程卒業生一万五千人達成記念祝賀会が開催されました。

当日の参加者をふくめ、二百十五名の参加者が会場いっぱい集まり、とても盛会でした。第一部の記念講演会は、十五時からホールにて開催されました。小説家であり慶應義塾大学出版会顧問の坂上弘氏が、「慶應通信七十年の歩み―向学の夏―」という演題で講演しました。司会は、全国通信三田会総務部副部長の須賀淳子君が務めました。坂上先生の熱弁に会場には何度も拍手のうずが起きました。



清家篤 塾長のお祝辞

第二部の記念式典は、十六時半からホールにて開催されました。司会は、全国通信三田会副会長の吉濱健二君と田沼千鶴子君が務めました。最初に、慶應義塾大学応援指導部による「塾歌斉唱」が行われました。一番だけでしたが、大いに盛り上がりがありました。次に、祝賀会の実行委員長の山岡恒夫全国通信三田会会長があいさつしました。戦後すぐ、連合国より、日本でも大学の通信教育をしたらどうですかと問われ、国公立はお金がなく、

次に、清家塾長の祝辞が行われ、最初に清家塾長が祝辞を述べました。半学半教、人口が減っていく社会の中での一人複数役社会これから日本に求められる一人複数役社会、通信卒業生先頭に、在校生に対する暖かい指導、卒業生の役割について述べられました。次に、池田通信教育部長が祝辞を述べました。



渡部直紀 常任理事へ寄付目録贈呈

夫会長から、渡部直紀常任理事へ寄付目録の贈呈がありました。

お祝いのためにかけつけた、松浦良充文学部長、中村慎助経済学部長、榊原研五郎学部長、岩谷十郎法学部長、富山優一塾監局長が紹介されました。最後に比企能樹連合三田会会長が祝辞として、昨年はい工学部七十五周年、来年は医学部百周年と述べられました。



池田幸弘 通信教育部長のお祝辞

その後、会場をザ・カフェテリアに移して、十七時半から祝賀会が行われました。司会進行は、全国通信三田会の石川浩二君と星野寿美君が務めました。開会の言葉を、全国通信三田会副会長の高橋豊君が行いました。清家塾長の紹介があり、長谷山彰常任理事、渡部直樹常任理事、松浦良充文学部長、中村慎助経済



比企能樹 連合三田会会長のお祝辞

記念式典は、十七時に終わり、会場で、参加者全員による記念写真が撮影されました。その後、会場をザ・カフェテリアに移して、十七時半から祝賀会が行われました。司会進行は、全国通信三田会の石川浩二君と星野寿美君が務めました。開会の言葉を、全国通信三田会副会長の高橋豊君が行いました。清家塾長の紹介があり、長谷山彰常任理事、渡部直樹常任理事、松浦良充文学部長、中村慎助経済

宴は全国通信三田会名譽会長の加納時男君の乾杯の音頭で始まり、宴たけなわの内、全国通信三田会に貢献した会員への感謝状贈呈が行われました。最初に全国通信三田会副会長の幸治典子君が四十八名の名前をお呼びしました。四十八名は演台に上がり、代表して加納時男君が挨拶し、星野君がお盆で運んできた感謝状を山岡会長より受け取り、お一人一人に手渡しました。十八時十五分から約三十分間、応援指導部によるグッズ販売が行われ、いろいろな慶應応援グッズが飛びように売れていきました。十九時過ぎより、応援指導部による「若き血」の斉唱と「慶應賛歌」、卒業生に向けたエールが行われました。参加者全員で肩を組みながら「若き血」を歌い盛り上がりしました。チャアリー



北館ホールの式典出席者



吉濱健二君と田沼千鶴子君の式典司会

ダリーの演技が華をそえてくれました。スポーツでチャンスの時に流す突撃のテーマ「コールケイオウ、ダッシュケイオウ」には、大きな拍手が起きました。全国通信三田会副会長の瀬戸田誠君により、中締めがなされました。十九時半、全国通信三田会企画部長の出口常雄君が閉会の辞を述べ、祝賀会は終了しました。(安東幹・記)

山岡恒夫会長挨拶

本日ここに、慶應義塾大学通信教育課程卒業生一万五千人達成記念式典を挙げるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。本日は、お忙しい中、清家篤塾長、長谷山彰・渡部直樹常任理事、池田幸弘通信教育部長、慶應連合三田会からは比企能樹会長。ご来賓とし多くの先生方にもご臨席を賜りまして、誠にありがとうございます。慶應義塾百年史によれば、戦後、連合国民間情報教育局から日本にも通信教育の制度を行ってはいかたの勧めがあり、大学の通信教育については国立大学は予算等の関係で困難であろうから私立大学で研究して欲しい。「米をつきながらも学問はできるものである」と福澤先生が言っている慶應義塾あたりがこの制度を実施してくれば、という希望が情報教育局や文部省にあつたようです。第一期生として、志願者二万数千名中から一万三千一名の入学が許可されました。昭和23年5月30日、三田で慶應義塾大学通信教育開校式が、第一期生入学式を兼ねて盛大に行われました。まず松本芳夫通信教育部長の経過報告と挨拶、続いて潮田江次塾長の挨拶、森戸辰男文部大臣、連合国教育局

のマグレールの祝辞、学生代表の答辞があり、最後に一同で塾歌を斉唱して式を閉じました。式終了後、同じ会場で開催記念学術講演会が開かれ、最後に会場をかねて、懇談茶話会を開きました。出席した多数の来賓の人たちはこの日の情景を目撃して、欧米での通信教育の通念とする「見えざる教師、見えざる学生」という考え方を打破し、しかも学問への意欲に燃えた熱心な学生の姿を眼前に見た喜びを異口同音にもらっていたそうです。実際、通信教育の学生が直接が師を見、声を聞き、自分の大学の教室で塾歌を歌ったのみならず、高尚なる学術的な講演を聞く一方、茶葉を前にしながら親しく多くの師と友と話を交えることができたことは、学生にとって大きな感激であり喜びであつたことでしょう。この開校式で行われた形式はその後、この種の行事には常に取り入れられております。本日も、清家塾長はじめ多くの先生方のご臨席を賜り、記念講演は坂上弘先生にさせていただきました。開校して4年後の昭和27年2月、卒業論文を提出した者は52名であり、最後の関門総合面接試験を突破して、記念すべきとして名譽ある最初の卒業証書を授与されたものは、34名でした。あまりにも少なすぎます。この数字が、ある意味で慶應義塾の通信教育の信用度を高めたようすです。

その後63年経って卒業生が一万五千人を超えました。連合三田会の中でも全国通信三田会は構成員では最大のものになっています。この間の、歩みは決して平坦なものではありませんでした。それを乗り越えることが出来たのは、歴代の塾長をはじめとする塾当局の方々の愛情と、先輩の皆様のご努力ならびに連合三田会の皆様の励ましのお蔭です。厚くお礼を申し上げます。全国通信三田会は、本日のように、節目ごとに記念行事を行ってきました。改まった会場を作り、改まった挨拶を交わし、改まった気持ちで、未来への計画を立て、実現への努力を誓い合う。「節目」をつける文化であります。元通信教育部長の小谷津孝明先生が昭和61年1月の「慶應通信」に年頭所感として、「ノールベ生物学賞を受賞したセント・ジェルジの説から、『節目の文化』を、私たちの祖先が作り出した大いなる遺産ということができると、書かれておりました。私たち人間は、本日のような「節目の時」に、私たち自身、および私たちの社会に、私たちにとって最も必要な力、つまり生命力を、私たち自身で吹き込むことができ、そうすることによって、更に発展していくことができるという考えです。慶應義塾のますますのご発展と、皆様方のご健康を祈念致します。



全国通信三田会に貢献した会員への感謝状贈呈 代表して加納時男君が挨拶しました

感謝状贈呈者名簿

(当日出席者)

- 赤岡 充雄(神奈川) 五十嵐良雄(東京) 糸井 運平(東京) 伊藤 栄治(神奈川) 井中 宏史(愛知) 大原三枝子(徳島) 小河 和子(山口) 奥田 浩(静岡) 小田 真理(広島) 笠原 誠一(岡山) 加納 時男(東京) 加納 弘史(高知) 河野 紘一(神奈川) 越川 謙一(千葉) 最首 和雄(千葉) 櫻井 芳寛(神奈川) 迫田 勲(広島) 志尾 章(福井) 進藤 伸一(秋田) 末永利一郎(宮城) 鈴木 齊(群馬) 鈴木 隆(北海道) 高木 昂(茨城) 高木 憲章(東京) 高嶋 誠二(埼玉) 田口 慶治(熊本) 田崎百合子(栃木) 田中 将康(東京) 徳光 重希(石川) 南部 寛(石川) 根本 義夫(栃木) 長谷川英昭(神奈川) 長谷川 守(東京) 伏屋 重晴(愛知) 堀田 健(東京) 堀田 敏之(長崎) 本間 利雄(埼玉) 本多 大佑(東京) 宮北 薫(香川) 宮下 正夫(群馬) 茂木 瑞枝(群馬) 森川 博文(静岡) 八木 良一(愛知) 山田 融(北海道) 横田 春美(群馬) 吉田 真己(北海道) 吉弘 義鑑(熊本) 由元 明貴(山口)

(48名に贈呈)

記念講演 慶應通信70年の歩み 「向学の夏」に寄せて 作家・坂上弘



1. はじめに 「向学の夏」

卒業生1万5千人達成、おめでとございます。これは何十万人の中の1万5千人なのでしようか。人間としてのご苦労とよるこびの入り混った、それを克服することで人生の目標を達成できた、真のよろこびの数字であろうと思ひます。尊敬をもつと同時に、私なら挫折して、同じ仲間への尊敬の念をもつたでしょう。私は、通信教育課程卒の皆様と働いていまして、卒業生の中には色々なスゴイ人がいる。経済学部を卒業した学士が、又、法学部で学び卒業する。慶應の通信を卒業して他の大学の大学院に行く方がいる。他大学の学士をとられたあと、学問の目標をさらにもって義塾にくる実社会の人々。さて、ここへの私の登場のキッカケとなった理由ですが、昨年の日経に書いた「向学の夏」です。これが吉浜さんの目に止まった。日経には、夏になると一回書きます。1945年8月の終戦がいかに心を支配しているかが、私の世代です。1936年生まれの、平和へのよろこびを1945年に味わったこの私の世代の出発の夏と共に、戦後のすぐ48年1月に、実はもう一つ出版したものがあつた。それが義塾の通信教育である。当時のGHQの支配下で日本の大学として社会人教育をはじめめるに当って、義塾は真先に教育による復興に手をあげた。教育こそ日本の本道です。これがあつたので、日経で私は暑い中で学ぶ通信の皆さんの現代の姿を、書きました。これが今日の講演のおすめになったわけですね。そこで今日は、少しでもその当時のすこいエネルギーをお話したいのです。「慶應通信」の第1号のコピーをお配りします。勿論、この通信教育課程が大学の正規の課程として認可されるのは1950年になる。義塾の他に、中央、日本女子大、日本大学、玉川大学と続きます。この辺のことも「慶應通信」から読めます。

2. 慶應通信70年の第一歩

この「慶應通信」第一号、昭和23年(1948)1月10日号第一面に「福澤先生の誕生日を迎えて」大学通信講座日を迎えてという見出しがでていいます。昭和23年1月10日福澤先生の誕生記念日を期してわが慶應義塾大学通信講座はいよいよ二期的な教育民主化の第一歩を踏み出すことになった。とありますように、戦後の廃墟の復興に福澤先生と共に、学問による復興を歩むよどみない気持ちで進む、明治維新と同じ気概を披露しています。この「慶應通信」の社説面に、高橋誠一郎名誉教授当時塾長代理が「開講に際して」をのせ、次のようにいっている。「御承知の如く、新憲法は其の第26条に於る国民が其の能力に応じて、等しく教育を受ける権利を有することを規定している。而して、教育基本法と同時に施行された学校教育法は、期々の如き精神を取り入れ、教育をすべての国民に解放して、教育上の機会均等を實質的に保障せんことを期し、特に勤労大衆青年の就労を容易ならしめるがために、高等学校及び大学に法規上正式に夜間学校を認め、高等学校には定時制のものを認め、特に又、通信教育を制度化する所があつた。洵(まことに)、通信教育こそは、教育の民主化、教育の機会均等の要望に答える新しい教育方法なのである。而して、教育の民主化、学問の普及を旨として拮据経営九十年の歴史を閲した慶應義塾は、此の機運に乗じていち速く其の陣容を整え、大学通信講座を開くことになった。今や其の準備全く成り、三学部、各三千の学徒を迎えて華々しく開講するの運びとなつた。洵に慶賀に堪えぬ所である。」

3. 慶應通信から慶應義塾大 学出版会への歩み

さて、慶應通信教育図書株式会社スタート 1月10日発行の「慶應通信」第1号、といつしよに5月10日発行の第3号をお手元に、皆様は記念にさし上げています。もう一回のスクリーンが報じられていますね。これをさし上げる意図は、今の時代に、通信による学問、学び直しの時代に求められている「学問のすゝめ」をこれから日本の為にさらに発展させていたきたいからです。この「慶應通信」の発行は、慶應通信教育図書(株)です。よくごらんくださると、この資料は、当時、戦後の社会復興の日本を先導して行く義塾の使命感が、福澤精神として語られている。強く伝わる。戦後の危機というところでは、明治維新以上であつたからです。そういうときに、「慶應通信」は、とても大事な使命をになう、ジャーナリズムです。堂々とスタートしています。さらに、この第3号の下の広告が2つある。1つは、慶應通信教育図書株式会社 三田豊岡町8で、1つは、慶應出版社 三田二ノ一。一方は、われわれ学生の課外読物の福澤先生の本の出版、教授の学術書。この慶應出版社は、大学出版社、ユニバーシティ・プレスのようなのだが、内実はどうか。ここで、義塾の出版活動の歴史はどうなつていたのだろう、という、大事なところが、脇道ですが入ります。いやもしかすると、福澤先生が相当に力を入れたこの義塾の出版力のほすのが、これから如何に大事か、と思うからです。小泉先生と福澤先生出版のこのことを、私は調べたことがありますが、小泉先生の愛着、ヴィジョンにはユニバーシティ・プレスがあつた。福澤先生の出版は、時事通信に発展しますが、なくなつた出版社を義塾として一度もちたいなどこの出版社があつたのに、

4. 私が義塾で学んだこと

慶應義塾はどんな山脈の学塾なのだろうか。高校時代、都立だったものですから、福澤先生の本を直接読む前に、小林秀雄の福澤論吉論なんかを読む環境でした。小林秀雄は「学問のすゝめ」第13篇をとり出して、次のように解説してみせる。福澤先生は「人間品性の不徳を語る言葉の種類は実に沢山あるがその人心の動きに着目すれば、その内容の強弱、方向によって、間髪を容れず、徳を語る言葉に転ずる。例えば、「驕傲」は「勇敢」に、「粗野」は「率直」に、「固陋」は「着実」に、「浮薄」は「穎敏」に、という具合に切りがない。ところが、絶対に不徳を現わして、徳に転じないものが一つある。それが、「怨望」という言葉である。「略」「怨望」は自らを顧み、自ら進んで取るということがない。(繰り返します。)自覚性をまるで失つて生きて行く人間の働きは、「働の陰なるもの」であつて、そういう人間の心事は、内には私語となつてあらわれ、外には従党となつて現れる他に現れようがない。怨望家の不幸は、満たされる機会がない。自覚性を失つた心の空洞を満たすものは不平しかないも、不平を満足させるには自覚性が要るからだ。「学問のすゝめ」第13篇)

よくごらんくださると、この資料は、当時、戦後の社会復興の日本を先導して行く義塾の使命感が、福澤精神として語られている。強く伝わる。戦後の危機というところでは、明治維新以上であつたからです。そういうときに、「慶應通信」は、とても大事な使命をになう、ジャーナリズムです。堂々とスタートしています。さらに、この第3号の下の広告が2つある。1つは、慶應通信教育図書株式会社 三田豊岡町8で、1つは、慶應出版社 三田二ノ一。一方は、われわれ学生の課外読物の福澤先生の本の出版、教授の学術書。この慶應出版社は、大学出版社、ユニバーシティ・プレスのようなのだが、内実はどうか。ここで、義塾の出版活動の歴史はどうなつていたのだろう、という、大事なところが、脇道ですが入ります。いやもしかすると、福澤先生が相当に力を入れたこの義塾の出版力のほすのが、これから如何に大事か、と思うからです。小泉先生と福澤先生出版のこのことを、私は調べたことがありますが、小泉先生の愛着、ヴィジョンにはユニバーシティ・プレスがあつた。福澤先生の出版は、時事通信に発展しますが、なくなつた出版社を義塾として一度もちたいなどこの出版社があつたのに、

どうして別に慶應通信をつつたのか。私は、この慶應通信を平成7年、1995年に引き受けました。平成7年10月のことです。鳥居塾長のときです。義塾の慶應通信を再生する方針、社屋新成、マーケティングセンターの落成、と通信課程の改革発展と義塾のユニバーシティ・プレスの機能強化という2つに軸をおいた方針をもって、義塾は私にやるように言われた。義塾の、福澤先生以来のスタートです。じつはその時、鳥居元塾長は、何でも言うてくたさい、ききますから、といわれた。この大きき、お前らかきか、ありがたかつた。私が真先に打ち出したのは、社名変更でした。無謀だったかも知れませんが、

おおよそこういうふうには、小林秀雄が福澤先生をいかに日本人の思想を改革牽引するに偉大な、平易と苦惱をもつていた実践家であつたかを論じているのを知つたのです。その後ずつと福澤先生を讀むときの指針になつた。つまり福澤先生は、勉強のすゝめを説くなどとはしてない。学問のすゝめであり、その学問とは、日本人が自己の美德困窮の中にすっかり忘れていた冷静で人を愛するサイエンスであることを。その後私は福澤先生のことを深く学ぶわけでもなく、「三田文学」の先輩たちの膝下で育つことになりました。学生時代から小説の方へすすんだ。内村直也、北原武夫、佐藤朔、戸板康二、丸岡明、村野四郎、山本健吉という7人の侍といわれていた大先輩だった。これらの人々に、先輩の私たちに最初から傲岸排他は露ほどもなく、「文学は人を拒まない」という協和的精神がみなぎつていた。

そこには眞実、「怨望」というものが一切はたらくことはなかつた。当時学生の私自身はまだ「社中」という言葉すら知らなかつたが、三田の文人氣質を吸収してました。こうして「三田」「義塾」という環境は、私には、文学そのものの自主、自由を教えてくれたが、それは、「スクー

リンケ」に一番学ぶ姿が似ていた。自主的で自由で、活きて、そこには一切怨望というものがなく、校舎の遠くで子供部屋から声がきこえる。あの子供たちはいまだうしているだろうか。あの皆様は、きつと塾生になつて今の時代を担っているだろう。私は、三田の文人に、その怨望のない氣質に育てられたことを、生涯で最も多く、この怨望のない氣質こそ、二足の草鞋をはいてきた私は、世界で通用することを知っていた。二足の草鞋は、世界では、二つの帽子に譬えている。「学問のすゝめ」の本質は、型にはまらないということ。三田の文人は型にはまらない革新的な人が多い。二足、三足の草鞋、二つ、三つの帽子をかぶることです。

水島、久保田、佐藤、小泉、西脇、井筒、折口、滝口。この方たちが芸術家ではあるが、義塾の福澤精神のあらわれであることは、眞実です。

70年を迎える通信教育部が、在學生、教職員、そして卒業生である通信三田会の塾員の皆様、社中一致協力によって、益々の発展を上げて行くことを希望し、私も皆さんと一緒にこれからも塾員の一人として、その発展に貢献させて頂きたいと思つております。

5. おわりに

出版社でありましたが、この出版社は東京で一番大きな出版社になり、義塾の経営を十分に支えたので、先生は時事新報社へ発展させる。明治5年にはじまつた日本ではじめてのUP(福澤UP)は、それが惜しくもなくなくなりました。出版社は其後、小泉先生がそのかたちを整え、引き継がれております。小泉先生は、昭和11年(1936)、ハーバード大学創立三百年祝典に列席、傍ら、米國諸大学をみてこられたとき、米國人の教育を重んじ尊重する念の深いこと、大学の本務について常に期することの高位なこと、学生の健康についてほかに、「同じく在米中少しく注意を払つたのは、大学外に向つての普及の運動である。周知の如く、大学外の公衆に向つて講演あるいは講義録のような刊行物をもつて働きかけることがそのおまな方法となつています。すなわち株式会社慶應出版社なるものを起し、先ず義塾の経済学の講義を講義録のような形態でそこから公表することにしました。(略)」とおつしやつておられる。小泉先生の設立になる慶應出版社は、その目的は、いまの出版会に近いのではないかと思ひます。この慶應出版社は戦後小泉先生の「入門経済学」などのベストセラーを出

慶應義塾通信教育の歴史

昭和二年 十一月 第一期生募集受付開始
文学部・経済学部・法学部各三〇〇〇名を募集
昭和三年 一月 通信教育部を開設
昭和八年 一月 教材を配布、補助教材『三色旗』B6版と『慶應通信』タブロイド判・新聞の第1号を発行・配布

二月 第一期生として一三〇〇一名が入学
五月 通信教育部開設記念講演会
大阪、開校式・第一期入学式 三田校舎
五月 現在の慶友会にあたるクラスの第一陣が誕生
八月 第一回スクーリング 三田校舎

三月 慶應義塾通信教育課程が正規の大学課程として文部大臣の許可
七月八月 スクーリング
六月 週間(日吉・三田)
八月 スクーリング期間中に陸上運動会
日吉グラウンド以後恒例
四月 通年スクーリング始業式 三田校舎
七月八月 夏期スクーリング 通年スクーリング始業式(日吉・三田)

八月 体育実技を兼ねて 神奈川県葉山の水泳部合宿所と山梨県山中湖畔の山荘を利用して合宿
九月十二月 夜間スクーリング 三田校舎
昭和二六年 四月 通年スクーリング始業式 三田校舎
昭和二五年 七月八月 スクーリング
昭和二四年 三月 慶應義塾通信教育課程が正規の大学課程として文部大臣の許可
昭和二三年 一月 通信教育部を開設
昭和二二年 十一月 第一期生募集受付開始



昭和二七年 三月 通信教育課程第一期卒業生三十四名誕生
文学部十二名、経済学部十名、法学部十二名
卒業式 三田校舎新館南側広場 当時の卒業式
十月 通信教育課程卒業式(九月份卒業)

三田校舎卒業生は四三名
四月 七月 夜間スクーリング
七月八月 夏期スクーリング
後半の三週間のみ出席も設定
七月八月 夏期スクーリング
六週間 三週間の他に四週間の出席を設定
七月 七月号から『三色旗』をA5版に変更
四月 七月 春期の夜間スクーリング 出席2回以上対象 専門科目を主に開講
九月十二月 秋期の夜間スクーリング 初回出席者対象 一般教育科目、語学科目を開講
〇慶應義塾創立百周年記念事業
四月 『慶應義塾発祥の地記念碑』除幕式
八月 日吉図書館落成式
『慶應義塾藤山記念図書館』と命名
十月 日吉記念館落成式
十一月 慶應義塾創立百周年式典 日吉記念館
天皇陛下のご臨席を仰ぎ、陛下よりお言葉を賜る
〇通信教育部開設十周年記念事業
六月 日本短波放送に『慶應義塾の時間』開設
八月 記念運動会 日吉競技場
十二月 卒業論文指導に登録制
〇通信教育部開設十五周年記念事業
十一月 記念祝賀会 三田校舎
通信教育部賞賛奨励学資金制度発足
〇通信教育部開設二十周年記念事業
六月十二月 記念公開講演会 福岡・札幌・広島・松山



昭和三四四年 六月 日本短波放送に『慶應義塾の時間』開設
八月 記念運動会 日吉競技場
十二月 卒業論文指導に登録制
昭和三五五年 〇通信教育部開設十五周年記念事業
昭和三七年 十一月 記念祝賀会 三田校舎
昭和四〇年 通信教育部賞賛奨励学資金制度発足
昭和四二年 〇通信教育部開設二十周年記念事業
昭和四七年 六月十二月 記念公開講演会 福岡・札幌・広島・松山

昭和四三年 〇通信教育部開設二十周年記念事業
四月六月 記念公開講演会を金沢・大阪・名古屋・仙台
五月 記念式典・記念講演会 三田校舎
学園紛争の影響で夏期スクーリングが八月二〇日中止
九月 開講予定の夜間スクーリングを延期
五月 入学式 三田校舎
入学記念講義・入学ガイダンスを札幌・秋田・仙台・長野・福井・津・広島・徳島・福岡で実施
〇通信教育部開設二十五周年記念事業
四月十二月 記念公開講演会を札幌・長野・神戸・福岡・広島・仙台・松江・高知・那覇・名古屋で実施
宿舎オリンピックセンター
五月 記念式典・記念公開講演会、懸賞学術論文の入選発表 三田校舎
八月 記念公開講演会 三田校舎
記念運動会 日吉競技場
私立大学通信教育協会の斡旋で『オリンピック記念青少年総合センター』を夏期スクーリング宿舎に利用
〇通信教育部開設三十周年記念事業
八月 記念特別講座 開設三十周年記念講演(義塾通信教育課程卒業生による講義)と記念講演会
九月 記念品として福澤諭吉著『学問のすゝめ』複製版を在學生に配付
十二月 慶應義塾図書館(新館)竣工披露
三田校舎夏期スクーリング体制を変更。五週間に三期に分け一・二期は日吉校舎、三期は三田校舎、各期ごとに科目履修が完了

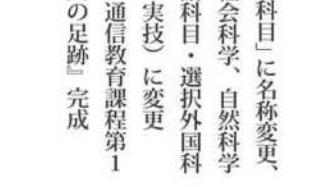
昭和四四年 学問紛争の影響で夏期スクーリングが八月二〇日中止
昭和四五年 五月 入学式 三田校舎
昭和四八年 〇通信教育部開設二十五周年記念事業
昭和四九年 四月十二月 記念公開講演会を札幌・長野・神戸・福岡・広島・仙台・松江・高知・那覇・名古屋で実施
宿舎オリンピックセンター
昭和五〇年 五月 記念式典・記念公開講演会、懸賞学術論文の入選発表 三田校舎
昭和五三年 八月 記念特別講座 開設三十周年記念講演(義塾通信教育課程卒業生による講義)と記念講演会
昭和五五年 九月 記念品として福澤諭吉著『学問のすゝめ』複製版を在學生に配付
昭和五六年 十二月 慶應義塾図書館(新館)竣工披露
昭和五八年 三田校舎夏期スクーリング体制を変更。五週間に三期に分け一・二期は日吉校舎、三期は三田校舎、各期ごとに科目履修が完了



昭和五六年 十二月 慶應義塾図書館(新館)竣工披露
昭和五八年 三田校舎夏期スクーリング体制を変更。五週間に三期に分け一・二期は日吉校舎、三期は三田校舎、各期ごとに科目履修が完了



昭和六〇年 一月 日吉図書館竣工披露
昭和六一年 一月 日吉校舎
昭和六二年 一月 『登録番号』の呼称を『学籍番号』に変更
昭和六三年 一月 初めての冬期体育実技(スキー)スクーリング
昭和六四年 長野県飯山市の戸狩スキー場
昭和六五年 四月 正科生の学籍番号をおよび聴講生・科目履修生の登録番号を八桁の数字の組み合わせに変更
昭和六六年 四月 科目試験の受験申込手続き方法を変更
昭和六七年 四月 『三色旗』総目次(1~500号)完成
昭和六八年 三月 学士の学位が与えられ学位記を授与
昭和六九年 四月 三田北館建設に伴い通信教育部事務所が仮事務所へ移転
昭和七〇年 夏期スクーリングに二期のみ一科目二〇分延長して二〇〇分とし期間を七日間とした。夜間スクーリングは従来十一週間で一回二〇〇分の授業を行っていたが、十週間で一回一三〇分の授業に変更
昭和七一年 三月 三田北館竣工に伴い通信教育部事務所を同館新館一階に移設
昭和七二年 『一般教育科目』を『総合教育科目』に名称変更、総合教育科目は人文科学、社会科学、自然科学の三分野科目と、必修外国語科目・選択外国科目、保健体育科目を(講義・実技)に変更
昭和七三年 十一月 『別冊2 三色旗』通信教育課程第1回~第85回卒業生 卒業論文の足跡』完成
補助教材として配布



平成元年 夏期スクーリングの出席申込方法を受講料を振込送金に変更
平成二年 一月 日吉図書館竣工披露
平成三年 一月 日吉校舎
平成四年 一月 『登録番号』の呼称を『学籍番号』に変更
平成五年 一月 初めての冬期体育実技(スキー)スクーリング
平成六年 長野県飯山市の戸狩スキー場
平成七年 四月 正科生の学籍番号をおよび聴講生・科目履修生の登録番号を八桁の数字の組み合わせに変更
平成八年 四月 科目試験の受験申込手続き方法を変更
平成九年 四月 『三色旗』総目次(1~500号)完成
平成一〇年 三月 学士の学位が与えられ学位記を授与
平成一一年 四月 三田北館建設に伴い通信教育部事務所が仮事務所へ移転
平成一二年 夏期スクーリングに二期のみ一科目二〇分延長して二〇〇分とし期間を七日間とした。夜間スクーリングは従来十一週間で一回二〇〇分の授業を行っていたが、十週間で一回一三〇分の授業に変更
平成一三年 三月 三田北館竣工に伴い通信教育部事務所を同館新館一階に移設
平成一四年 『一般教育科目』を『総合教育科目』に名称変更、総合教育科目は人文科学、社会科学、自然科学の三分野科目と、必修外国語科目・選択外国科目、保健体育科目を(講義・実技)に変更
平成一五年 十一月 『別冊2 三色旗』通信教育課程第1回~第85回卒業生 卒業論文の足跡』完成
補助教材として配布



平成一七年 通信教育部編『卒業論文の手引(新版)』(慶應通信刊)完成、販売開始
平成一八年 四月 レポート用紙を一新
平成一九年 『学習のすゝめ』の改定新版『学習のすゝめ』総合教育を学ぶために』と福澤諭吉著 富田正文校注『福翁自伝』を平成八年度新人生から配付
『報告課題集』の呼称を『レポート課題集』に変更
平成二〇年 補助教材『慶應通信』を新版に変更し、『ニューズレター慶應通信』に改称
平成二一年 体裁をタブロイド判・新聞をB5判
平成二二年 五月 通信教育部開設五十周年記念懸賞論文を募集
五月 インターネットによるレポート提出・添削指導の実験開始
四月 一部の科目についてワープロで作成したレポートを許可
〇通信教育部開設五十周年記念事業
十月 記念式典 記念懸賞論文の入選発表 三田校舎
十月 『慶應義塾通信』を『通信教育部の五十年』と改題
十月 『慶應義塾通信』を『通信教育部の五十年』と改題
平成二三年 三月 通信課程卒業生が一人を突破
平成二四年 十二月 慶應義塾『第二回世紀送迎会』十九世紀の終わりに福澤先生が『第一回世紀送迎会』を三田山上で行ったのになむ
三月 通信課程卒業生が一万二千人を突破
〇通信教育部開設六十周年記念事業
六月 NIKKEI(第一放送)にて塾長や



卒業生一万五千人達成式典に参加、大いに節目を祝う

第4部会中で最後の「記念祝賀会」は、南校舎4階のザ・カフェテリアで行われた。会場内にはすでに大横断幕が掲げられ準備は万端、そして司会からは貴重品の管理や携帯マナーモード設定などの気配りに接して感心した。

それからは待たずと数分、ご来賓の方々が入場され、開会の辞は高橋豊副会長が指名され、力強く開会を宣言され、今宵の祝宴は幕を上げた。

ご来賓者の紹介に移り、日頃はお会いできない多くのご来賓が駆けつけられたが、長谷山彰常任理事が代表され、心に残る温もりのある感激のご挨拶をいただいた。

会食はミニバイキング形式の立食パーティー、各食べ物コーナーは人込みでこつた返していた中、とりわけ長年にわたり各地域三田会活動等に貢献され、実績を認められて出席された、全国各地の顧問や会長ほかへ山岡恒夫全国会長より感謝状が贈呈された。

また、参加者への激励や盛り上げのため応援指導部の諸君が招かれ、応援エールの披露、慶應グッズを手慣れた口調で販売、その人気は殊のほか高くこの場にマッチしていた。終宴には名残惜しい中、鍛えられた応援エールなどと共

に「元気が出る「若き血」や「慶應賛歌」を肩組み輪になり歌い上げた。瀬戸田副会長の中心締めにも力が籠っていた。出口常雄企画部長が閉会の辞を務め、惜しみつつもすべての式典はお開きとなった。とにかく過日の半日は、第1部に本来の幹事会を開催、その報告資料の編纂作業を協力を受けて朝から実施、時間短縮が叶った。今後の会合に弾みを付けられたことは事実だ。

さらに通信課程卒業生には、的を射た坂上弘顧問の記念講演会や清家篤塾長、長谷山彰常任理事等をご来賓にお招きした記念式典や第4部会の記念祝賀会に至るまで、タイトな時間を遅滞なく完結できたのは、数十回に及ぶ用意周到な企画部を中心の準備委員会開催であり、全国役員メンバーから組織図を作り、緻密な計画を練り情熱や実行力が相まって責任感ある行動があったればこそその目的意識が、相乗効果を呼び起こしたと考える。

それは一五〇人参加目標に対して、二一〇人超が三田山上へ集合し、記念すべき式典他にはこの上ない心に残る学び舎での「節目の文化」と捉え、一つの大切な伝統に変わるだろう。

しかも大勢の仲間が楽しく過ごせたこと、今後の人生に

に「元気が出る「若き血」や「慶應賛歌」を肩組み輪になり歌い上げた。瀬戸田副会長の中心締めにも力が籠っていた。出口常雄企画部長が閉会の辞を務め、惜しみつつもすべての式典はお開きとなった。とにかく過日の半日は、第1部に本来の幹事会を開催、その報告資料の編纂作業を協力を受けて朝から実施、時間短縮が叶った。今後の会合に弾みを付けられたことは事実だ。



祝賀会の司会者 石川浩二君と星野寿美君



加納名誉会長の音頭で乾杯



長谷山 彰常任理事のお祝辞

再会の記念に1枚



駆けつけて来てくださった 池田真朗元通信教育部長



ご馳走が並んで



応援指導部のエール



肩を組み若き血、を歌う



- 慎んでお悔やみ申し上げます
牧山璋一郎 (S40) 北郷隆昭 (S33)
財前展坦 (S46) 茂木永吉 (S34)
増田美津子 (H15) 廣田富美男 (S36)
坂下武弘 (S49) 工藤 護 (S38)
水上智恵子 (H13) 岩淵巨樹 (S40)
鈴木 彰 (H03) 池田富重 (S61)
牧野和春 (S36) 福田史郎 (H07)
長谷川順逸 (S36) 榎村晴道 (S39)
深井芳治 (S30) 篠崎佳久 (S52)
佐藤範男 (H20) 池田 運 (S60)
花崎寿雄 (S31) 安喰紀子 (H11)
越沢忠一 (S28) 大門 潔 (S29)
小嶋郁文 (S33) 木下正二 (S31)
鈴木一男 (S32) 横田保彦 (S38)
工藤昭次 (S28) 三橋 剛 (S28)
鈴木 仁 (S32) ※お名前と卒年
熊本かほる (H26) を表記
永谷一夫 (S45) H29.1.15現在

15000人突破記念祝賀会に参加して
広島通信三田会会長 迫田 勲
全国各地から向学心に燃え、それぞれの思いや志をもって憧れの慶應に入学、数々の厳しい障害を乗り越えた仲間が15,000人を超え、その記念祝賀会に感慨をもって参加した。

Table with 2 columns: 氏名 (Name) and 在任期間 (Tenure). Lists names of past communication education department heads from 1952 to 2017.

「通信講座」開講当時の雰囲気に触れて ~15,000人祝賀会に出席して
平成28年10月15日に、「慶應義塾大学通信教育課程卒業生15,000人達成記念祝賀会」が三田キャンパスにて盛大に執り行われ、私も出席しました。6月の千葉通信三田会の総会の際、全国通信三田会の山岡会長から、通信教育の歴史は戦後GHQの要請に...

●10月15日(土) 13:00~14:30
●慶應義塾大学 三田北館大ホール

秋期幹事会報告

出席幹事54名 委任状16名 幹事総数113名(幹事会成立)
議長:瀬戸田 誠 副会長 書記:星野 寿美 広報副部長

晴天に恵まれた2016年10月15日「2016年度秋期幹事会」が、
「通教卒業生1万5千人達成記念行事」に先立ち、三田キャンパス
にて行われた。通常の会議室形式と異なり、ホールの植上に各県
会長が上がり一言ずつ活動を報告した。

- 日時 2016年10月15日(土)13:00~14:30(受付:12:00開始)
●場所 慶應義塾大学三田北館1階ホール
●議事 (司会 高橋豊 副会長)
議長:瀬戸田 誠 全国通信三田会副会長 を選出
書記:星野寿美 広報部副部長 を選出
出席幹事の確認 山本総務副部長

(議事内容)

一 冒頭、物故者に黙祷をささげ、会議開始一

1. 会長・名誉会長挨拶、顧問紹介

1-1 山岡恒夫会長挨拶

配布資料のKTMにそって報告
本日大勢の皆様にご協力いただき、素晴らしい1万5千人達成記
念行事を開催。

1-2 加納時男名誉会長挨拶

通教卒業生が15000人を超えたことは実に素晴らしい。生涯、
人は勉強である。仲間と苦勞し励まし合い、スクーリングや卒
論へ大変な困難の中から卒業。
その中で全国規模の三田会へ発展できた。
15000人は夢のような数だが、今後さらに増やしていける様に。

1-3 出席顧問紹介(伏屋重晴、八木良一、田中將康、高木昂、
明石憲彦各顧問)

2. 各部の報告

2-1 企画 出口常雄企画部長 資料により報告

通教卒業生1万5千人記念祝賀会は200名以上の参加

2-2 会計 大川成一副会長 資料により報告

平成28年度4月1日~9月30日会計報告単年度赤字。
データベースの移行作業につき今年度会費収入未収

2-3 広報 幸治典子副会長 資料により報告

記念行事案内につき103号は2200部発送
104号は特別号として12面か10面を2017/2/10に発行予定

2-4 渉外 阿部光江副会長 資料により報告

7/13・7/26・9/6 塾員センター訪問

2-7 総務 高橋豊副会長 資料により報告

役員会メンバー、幹事会メンバーの確認

2-8 地域連絡 瀬戸田誠副部長 資料により報告

地域連絡部の現状と対策案 卒業25年50年積極的参加を支援

- 山木直人 北関東担当 資料あり
小林伸 東北担当(欠席) 資料なし
鈴木隆 北海道担当 資料なし
矢澤明子 甲信担当(欠席) 資料なし
徳光重希 北陸担当 資料あり
小河和子 中国担当(鶴田代理) 資料あり
大原三枝子 四国担当 資料なし
堀田敏之 九州担当 資料なし
伏屋重晴 東海担当 資料あり
筒井俊晴 関西担当(欠席) 資料なし

3. 各地域三田会の報告

東京 古谷昇会長 資料により報告

5/21総会 2017/2/25新年会ほか

茨城 高木昂顧問 資料により報告

5/28・29全国幹事会、水戸名所散策
9/11北関東合同通信三田会ほか

埼玉 大川成一会長

2名の新会員入会しも前進ほか

神奈川 宮坂きよ子副会長 資料により報告

8/27横浜港早慶OB交流会 11/12総会 複数同好会開催

千葉 越川謙一会長

講演会は会員が得意分野を発表 今年度入会者ゼロほか

愛知 岩田賀世会長 資料により報告

6/19新塾員歓迎会(新会員3名のうち2名参加)
2017/1下旬総会ほか

札幌 吉田真己会長 資料により報告

6/25新塾員歓迎会・新会員1名 2017/4/8総会予定ほか

宮城 末永利一郎会長

6/7山形にて交流会 11月例会ほか

福島 森正次会長 資料により報告

今年卒新会員1名 7月東北連合三田会(秋田)ほか

栃木 根本義夫会長 資料により報告

卒業生ゼロ 会報企画「先輩訪問」会員の掘り起しほか

群馬 中島由美子会長 欠席 資料あり 報告なし

静岡 加藤弘明会長 資料により報告

7/9総会にて役員改選・新会長 2017/1/14新年会 HP開設

岐阜 細江篤己会長 資料により報告

9/3東海合同通信三田会 2017/2総会予定ほか

石川 徳光重希会長 資料により報告

7/3総会・20周年祝賀会
2017/秋に石川にて北陸合同通信三田会ほか

福井 志尾章会長 資料により報告

5/29総会 慶友会との交流(科目試験時講演会傍聴)スカイプ会議

京滋 戸井善彦会長 資料により報告

8/7都鳥の会(迫田塾員講演)交流会 2017/2都鳥の会予定ほか

岡山 明石憲彦名誉会長 資料により報告

S35年に創立し休会を経てH8年復活 総会、役員会、小旅行ほか

広島 迫田勲会長 資料により報告

8/9広島慶應倶楽部総会 2017/1~2日帰り研修旅行ほか

山口 由元明實会長 資料により報告

6/10.11総会 12月みかん狩り 2017/1新年会ほか

香川 宮北薫会長

4/22.23中・四国合同通信三田会香川大会ほか

高知 加納弘史会長

昨年卒論発表会初開催 11月2回目開催ほか

徳島 大原三枝子会長 資料により報告

7/24懇親会(新会員1名) 2017/1/22新年会ほか

長崎 堀田敏之会長 資料により報告

9/3九州合同通信三田会長崎大会 2017年創立20周年ほか

熊本 田口慶治会長 資料により報告

7/23新塾員歓迎会 12月慶友会と忘年会ほか

沖縄 宮城盛孝会長 欠席 資料あり

4. 役員人事・幹事会メンバーの確認

4-1 役員人事

静岡 会長交代 加藤弘明 新会長

4-2 幹事会メンバー 平松弘行 渉外部副部長

5. 通教卒業生1万5千人達成記念行事について

出口常雄企画部長 約1年間準備委員会を重ね、皆様の協力で開催
できた。

6. その他

次回全国通信三田会春期幹事会
2017.5.27 高知にて開催予定
加納高知会長・大原徳島会長 精一杯準備し皆さんを歓迎します。

通信教育課程卒業生数

Table with columns for graduation year (卒業年度), department (学部), gender (男/女), and total count (合計). Rows include years from 昭和26 to 平成27, and a final summary row (総合計).

出所 1.昭和26年度~平成9年度:『慶應義塾大学通信教育部の五十年』
2.平成10年度~平成27年度:『全国通信三田会報』